

加速するデジタル化の取り組みを下支えする 「UCマルチドメイン証明書」

証明書発行にかかるコスト、スピード、セキュリティの課題を解決



会社名：
豊田通商株式会社

事業内容：
各種物品の国内取引、輸出入取引、
外国間取引、建設工事請負、各種保険
代理業務等

本 社：
名古屋市中村区名駅四丁目9番8号
(センチュリー豊田ビル)

従業員数: 66,067人
(2020年3月31日現在: 連結)

1948年設立、トヨタグループの総合商社として、金属、グローバル生産部品、ロジスティクス、自動車、機械、エネルギー、プラントプロジェクト、化学品、エレクトロニクス、食料、生活産業の事業領域で豊かな社会づくりに貢献してきました。4つの重点分野である「ネクストモビリティ」「アフリカ」「再生可能エネルギー」「循環型静脈事業」への取り組みを加速することで、社会課題の解決に貢献していきます。

1948年設立、トヨタグループの総合商社である豊田通商株式会社。同社のビジネス領域は多岐にわたり、近年デジタル化に向けた取り組みを加速させているが、その中で、新たなWebサイトやサービスのプロトタイプ構築を「安全に、スピーディに」行う必要があった。そこで複数のドメインを持つホストを1枚のサーバー証明書で保証できる「UCマルチドメイン証明書」を導入。証明書発行にかかるスピード、コスト、セキュリティ向上という課題を解決し、社内のデジタル化推進に寄与している。

■ デジタル化に向けた取り組みをスピーディに推進できる仕組みが必要

トヨタグループの総合商社として、自動車関連事業を主軸に成長を遂げてきた豊田通商株式会社。最近では、各本部がDX(デジタルトランスフォーメーション)に向けたデジタル化の取り組みを本格化させている。同社ではコーポレートサイトをはじめ一般のお客様向けに公開されたWebサーバーや、外部のパートナーが社内ネットワークにアクセスする際に安全な通信を提供するため、SSLサーバー証明書を利用してきた。IT戦略部 インフラグループの吉井氏は「当社はこれまで保有するドメイン内でサーバー証明書を発行し放題の『AffirmTrust』のSSLサーバー証明書サービスを利用していた」と説明する。デジタル化の進展に伴い、同社も各事業部でPoC(概念実証)を含む、Webサイトや新たなサービスを構築するケースが活発化している。「各事業部が利用するWebサーバーは、AffirmTrustの発行対象外のドメインのサーバーであるケースがあり、そうしたケースは今後も増える可能性がある」と吉井氏は述べる。DX実現に向け、デジタル化はスピードが重要な鍵であり、外部サービスを利用しながらプロトタイプ構築などをスピーディに進める必要があるため、ネットワークなどのITインフラには「イノベーションのブレーキとならないような」柔軟性が求められていた。

■ 複数のドメインでサーバー証明書を発行できるサービスを選定

さらに、同社ではWebセキュリティの強化のためにHTTP通信を監視し制御するWAF(Web Application Firewall)を導入している。同社IT戦略部 インフラグループの稲垣氏は「WAFはSSLで暗号化された通信を監視できないため、今後はWebサーバーだけでなくWAFにもSSL証明書を発行する必要があった」と話す。しかし「従前のサービスでは発行できるサーバー証明書に限りがあったため、複数のドメインで発行できるサービスが必要だった」ということだ。さらに、エントラストジャパンから「AffirmTrustが2021年春以降、証明書が発行できなくなる」との通知を受ける。そこで同社では、新たなサーバー証明書サービスの選定を2020年の11月ころから本格化させた。エントラストジャパンからは新たなSSLサーバー証明書サービスとして「UC(Unified Communications)マルチドメイン証明書」の提案を受けた。これは、異なるドメイン名を持つホストを1枚の証明書で保証できる証明書サービスで、ドメインは最大150まで拡張可能なもの。稲垣氏によると「エントラストを含め、5社くらいの証明書サービスを候補に検討、選定を行った」そうだ。

■ コストパフォーマンスの高さや運用のしやすさが決め手に

サーバー証明書採用の決め手となったポイントについて、稲垣氏は「価格面でのアドバンテージを

挙げる。AffirmTrustは年額サービスで契約しており、「割安で提供していただいていたので、新サービスもなるべく近い内容で検討していた」と話す。UCマルチドメイン証明書サービスは、「AffirmTrustで発行対象だったのドメインの多くをカバーできる」点に加え、「証明書は発行し放題ではないものの、候補のサービスの中で最もコストパフォーマンスが高かった」ことが決め手となった。また、吉井氏は「AffirmTrustの証明書データをそのまま引き継ぐことから、既存サービスとほぼ同じ運用ができる」点も大きなポイントだったと話す。さらに、証明書発行の申請や有効期限管理などが行える「CMS」(Certificate Management Service) ポータルについては、運用面で気になったことを自由に入力できるコメント欄や、管理ポータル画面の項目を変更できるカスタマイズの柔軟性などが、運用面に寄与することが期待された。こうした点が評価され、エントラストのUCマルチドメイン証明書サービスが採用され、2021年1月より正式契約、「AffirmTrustのCMSが同3月末までしか利用できないため、対象となる約200枚の証明書を3月末までに移行する」作業を行った。

■ 約2ヵ月半で約200枚のサーバー証明書の移行を完了

UCマルチドメイン証明書のメリットとして「当社が保有する複数のWebドメイン、WAFにサーバー証明書を発行できるようになり、サーバー証明書の発行枚数削減と、デジタル化に向けたPoCなどのサイト構築をスピーディに、コストを抑えて進められる」点を挙げた。さらにWAFに対してもサーバー証明書を発行できることで、「セキュリティの面でも社内のデジタル化に寄与できる効果は大きい」と吉井氏は述べる。CMSの使い勝手については、「AffirmTrustのCMSとは見た目も使い勝手も異なるため、まだ慣れていない部分がある」としながらも、「発行自体はスムーズに行え、2ヵ月半くらいで約200枚のサーバー証明書の移行が完了できた」ということだ。稲垣氏は、前述したCMSのカスタマイズ性に加え「AffirmTrustの証明書情報を登録、参照することができるため、サービス移行後に、以前の発行履歴などの情報が引き継げるため、管理者の作業負担軽減につながる」と期待できると話す。また、エントラストのサポートについては「発行方法について何度か問い合わせを行ったが、きめ細かく対応いただいた」として、「サービス移行後も引き続き、運用面でサポートしていただけるのは心強い」ということだ。

■ デジタル化加速に向けたセキュリティ向上の取り組み支援に期待

今後の展望について、稲垣氏は「社内のシステムもさらに増えていくことが考えられるため、発行ライセンスが増えると考えられる」と述べた。基幹業務システムを含めてオンプレミスのシステムをクラウドに移行する取り組みも進めており、新規に発行するサーバー証明書を拡大させていきたいということだ。エントラストに期待することは「今後もサポート体制、対応品質のさらなる向上に努めていただき、Webやメールセキュリティに関する技術動向や新サービスの情報提供をいただきたい」とのことだ。吉井氏は「証明書の移行をスムーズに完了できた点について、サポートや協力に感謝する」と述べた上で、「今後は当社のデジタル化にセキュリティは不可欠な要素になっていくため、パートナーとして今後も変わらぬサポートや最新動向などの情報提供、提案を期待したい」と締めくくってくれた。



豊田通商株式会社
IT戦略部
インフラグループ
吉井 隼之介 氏



豊田通商株式会社
IT戦略部
インフラグループ
稲垣 里沙子 氏

詳細はこちら：
entrust.com/ja

